

# 「NISAに関する有識者会議」中間とりまとめのポイント

NISAについて、家計の安定的な資産形成を促進できているか等の観点から**効果検証**を行うとともに、それを踏まえた**制度や運用上の改善点等の検討**として、つみたて投資枠の対象株式指数の考え方や対象商品にかかる今後の検討課題を整理。

## 1. NISAの効果検証

- 足もと、幅広い所得階層や世代でNISA利用の広がりがみられるが、新しい制度が開始してまだ1年あまりであり、NISAをよりよい制度としていくためには**今後も継続的な効果検証**が必要。買付額・口座数だけでなく、世代別の利用実態や非利用者の理由、購入投資商品の分析など、多角的な検証が必要。また、こうしたデータの開示の充実も視野に入れるべき。

## 2. 効果検証を踏まえた制度や運用上の改善点の検討

- 顧客本位の考え方に則り、**ライフステージや投資ニーズの多様化に対応した制度の柔軟性・利便性の向上**が必要※。

### (1) つみたて投資枠における対象株式指数の考え方

- 「マーケット全体を広くカバーし、かつ既に市場関係者に広く浸透している」との考え方は維持しつつ、以下のように精緻化する。
  - ✓ 「マーケット全体を広くカバーする」との趣旨は、特定の産業を取り巻く経済環境やマーケットの関心に強く左右されない指数を対象とすることにあり、**指数の構成銘柄のセクターが分散されていることがその商品設計上のポイント**である。
  - ✓ 「市場関係者に広く浸透している」との趣旨は、機関投資家等の運用や幅広い層の資産形成において既に活用されている指数であれば、指数の算出方法の透明性や馴染みやすさ、指数の算出・公表の継続性が相応に確保されていると考えられることにある。**新しく開発された指数であっても、指数プロバイダーにおいて、指数の透明性・信頼性、及びその算出・公表の継続性等が確保されると見込まれるとともに、資産形成において広く活用されることが見込まれる指数については、対象指数として位置付けることを検討する余地がある。**

### (2) つみたて投資枠の対象商品にかかる今後の検討課題

- 投資初心者を含め、多くの投資家は自身の関心や理解度に応じて、地域別（例えば、ヨーロッパ、アジア）の投資商品を主体的に選択できるものと考えられることから、指数の対象地域が相応の地理的又は経済的な広がりをもっていることを前提に、**地域別の株式指数単体の商品をつみたて投資枠の対象とすることも検討する余地がある。**
- 資産形成を始めたばかりの層や、安定的なキャッシュフローを重視する高齢層など、より低リスクでの運用を望む者が安定的な資産形成をより行いやすくなるよう、株式に比べてリスクが低く、**より安定的なキャッシュフローが望めるアセットクラスをつみたて投資枠の対象商品に含めることも検討されるべき。**

※ なお、会議の中では、若年層から高齢者までのあらゆる世代が利用しやすい制度であるべきとの観点から、つみたて投資枠における年齢制限の引下げや、保有する商品から異なる商品への入替をさらに容易とすること、資産を運用しながら取り崩していく使い方もできるようにすることが必要といった意見も聞かれた。